

ハワイ大学国際交流事業：グレッグ・ムーア教授招聘報告

理学部地球環境学科

伴 雅雄

国際事業化研究センター「海外からの講演者招聘助成事業」の補助を受け理学部の国際交流事業の一環として、2013年9月30日～10月4日にハワイ大学マノア校 海洋・地球科学・テクノロジー学部のグレッグ・ムーア教授を招聘しました。グレッグ・ムーア教授は世界をリードする地震学者の一人で、特に反射波を用いた沈み込み帯・海溝付近の海洋地殻の構造解明の研究で有名です。2000年以降は海洋研究開発機構との共同研究で、大型掘削船「ちきゅう」を用いた南海トラフの調査を行い、過去に巨大地震をもたらしたと考えられる断層などの特徴を明らかにされ、今後の巨大地震発生に関する基礎データを提供されています。

山形には10月1日に到着され、その日は学部長、副学部長、学科長をはじめとする教職員と学術交流について種々情報交換をされました。翌日の10:00～11:30には理学部地球環境学科の地球物理学関連のゼミに参加され、地球環境学科大園真子先生の大地震後の東北地方の広域的な地殻変形に関する発表と修士2年高橋承之君の会津地域の大地震前後の地殻内流体の分布や形状の変化に関する発表に関し種々ご議論いただきました。このゼミには地球環境学科の学生・院生・教員約50名が参加し、議論に加わりました。13:30～15:00には理学部全体に向けた「**Geologic Studies of Subduction Processes in the Nankai Trough, Japan Trench and Sunda Trench**」と題する招待講演会を開催しました。2011年3月11日に巨大地震を引き起こした日本海溝周辺や、巨大地震の発生が危ぶまれている南海トラフ周辺の地質構造や過去の断層の活動について詳しく説明いただきました。さらにスダ弧について、2004年から相次いだ巨大地震の発生場の構造・広域応力場について説明いただくと共に、世界的に珍しい泥火山の噴出現象とその発生要因についてご紹介いただきました。理学部の学生・院生・教職員、総勢約150名が聴講し、活発な質疑応答が行われました。英語での講義を受講した学生は、大地震に関連する内容でありとても興味を持ったと同時に、自分の英語能力をさらに高め、内容をより良く理解したいとさらなる意欲が沸いた者が多かったようです。なお、3日には地球環境学科本山功先生の案内で大地震による被災地の状況を視察し、その日の夕方には、大園先生の案内で東北大学地震噴火予知センターを訪れ、観測体制などについて種々情報交換を行いました。

ムーア教授には講義以外でも積極的に学生・院生・教職員と交流を図っていただきました。本招聘全体を通して、特に、学生・院生の国際交流に関する動機付けに大きな効果があったと思われます。今回、本国際交流事業を援助いただいた本学の国際事業化研究センターに深く感謝いたします。

今後のハワイ大学との交流事業として、11月上旬に本学科の大学院生をハワイ大学に派

遣し共同研究を進めること、また、来年4月に3年生・大学院生・教員総勢約30名がハワイ大学に訪問し講義受講や種々情報交換を行うことを予定しています。



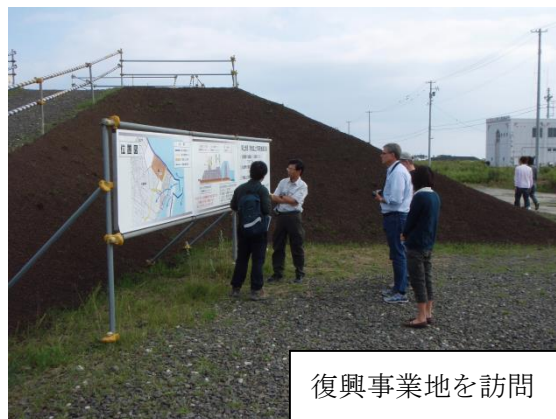
招待講演の様子



質疑応答の様子



ゼミの様子



復興事業地を訪問



玉手学部長、鶴浦副学部長、柳澤学科長との会談

左から、柳澤学科長、ジョルダン国際交流担当学部長補佐、ムーア教授、玉手学部長、鶴浦副学部長、伴